

縫い目と記憶

Stitches and Memory

KUNST ARZT では、初となる江藤菜津美の個展を開催します。
江藤菜津美は、刺繍を通して、
人々の認識に揺さぶりをかけるアーティストです。
連作「ゴミの宝石」では、まるでゴミ箱の中にあるモノを
そのままモチーフとして、刺繍を通して作品展開しています。
黒く腐りはじめたバナナの皮、ひしゃげた缶コーラ、
レトルトカレーの開封後のパッケージ・・・。
一見、ポップアートの系譜ですが、
消費後の無価値な姿にこそ存在の本質を見出しています。
ご注目ください。



(KUNST ARZT 岡本光博)

Garbage jewelry-Gomi no Hoshi-NO.1レトルトカレー
2020/9
染料, 刺繍糸, 毛糸, 樹脂/綿布

展覧会コンセプト

道端で運命的に出会ったゴミがいた。車に轆かれたのだろうかぺっちゃんこに潰れて押し花のようになっている。
私のワンクリックによって自動的にAIによって構築された人の顔は今にも挨拶をしそなほど精巧に出来ていた。
偶然通った道のカーブミラーには一瞬の風景が閉じ込められていた。
縫って刻み付ければ、その時のトキメキや驚きを余さず遺すことができるだろうか。

経歴

1998 大阪府生まれ
2021 京都芸術大学(旧 京都造形芸術大学) 染織テキスタイルコース 卒業

展覧会

2020 「クロスフロンティア 京都芸術大学 美術工芸学科選抜展 vol.1」ワコールスタディホール(京都)
2020 「京都芸術大学卒業展」京都芸術大学(京都) 優秀賞
2021 「Contemotaty Art Fair at HAKYU LAX」阪急うめだ本店 5F(大阪)
2021 「Hello2021 新人歓迎 summer」SUNABA ギャラリー(大阪)
2021 「おいてけぼり、あの日」芝田町画廊 Petit gallery(大阪)
2021 「TATSUYA ART COMPETITION 2021」GALLERY 龍屋(愛知)
2022 「神業展VI」AAA Gallery(神奈川)

2022年10月4日(火)から9日(日)

12:00 から 18:00

会 場 : KUNST ARZT

605-0033 京都市東山区夷町 155-7 2F

問い合わせ



KUNST ARZT 代表 岡本光博

090-9697-3786

kunstarzt@gmail.com

アーティスト・ステートメント

一針一針縫っていくと自分の中の心情も刻み込める気がしている。
古来より縫い目には呪力がやどると信じられてきたのだから、私のやっている縫製や刺繍などの装飾の作業は儀式に近いのかもしれない。
遺したいという気持ちでひたすら針を刺す。糸を重ねる。
自分の周りには物が溢れており、街の風景は変わり、SNS上では様々な情報が飽和している。
取捨選択をして生きているのだが、捨てられていくものはいつまで私の中で生きているのだろうか。
先人たちが祈りを込めながら縫ってきたように、現代に生きる私が忘れていくには口惜しいと感じるものを現在に縫い刻み、遺していきたいと思う。



自然と一体になって
2019/12
染料,顔料,糸,ビーズ/布
1000×1600mm

私は自然に対して憧れがある。瑞々しい草花、そこに住む動物、共存している人々。都市に住んでいる私からしたらフィクションのような存在。一人暮らしを初めて、自然と触れなくなった私が自然に思いをはせた作品。



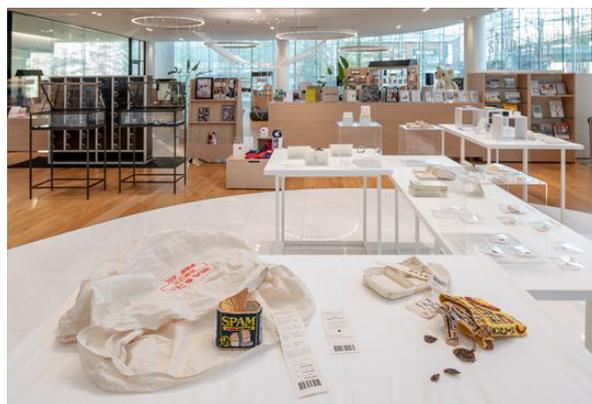
Garbage jewelry-Gomi no Hoshi-
NO,7 バナナの皮
2020/12

染料,ミシン糸/綿布
「ゴミ」というのは私たちの生活の中で切っても切り離せない、必ず出てしまうもの。
しかし、ゴミという物はいつから私達の中で魅力的な商品からゴミになってしまうのだろう。
何かの小さなきっかけで認識が変わるのだとしたら、ゴミだと思っていた物は誰かにとっては宝石のように価値があって、素敵な物なのかも知れない。パッケージ、食品ゴミ、ごみ袋....
すぐに捨てられてしまい、手元に残らない物たちを不変的なものに作り替えることで、手元に残そうと思う。



Garbage jewelry-Gomi no Hoshi-
NO,8 足のしぼんだバルーンドック
2020/12
刺繍糸,綿/オーガンジー
150×60×140mm

Garbage jewelry-Gomi no Hoshi-
部屋の片隅
2020/9
刺繍糸/綿布
370×350×200mm



「クロスフロンティア」
京都芸術大学 美術工芸学科選抜展vol.1」
展示風景 (2020)
ワコールスタディホール(京都)